はしもと　たけひさ
橋本 武久

経営学部 教授
博士（経営学）／神戸大学

ホームページ URL
http://www.cc.kyoto-su.ac.jp/~hashimot/

主な研究業績

■橋本武久（2019）「18 世紀オランダ簿記書における帳簿組織と資本勘定」『會計』第 196 巻第４号，15-25 頁。

■橋本武久（2018a）「会計的収益に関する一考察：G.J.Staubus 会計理論に寄せて」『京都マネジメントレビュー』第 32 号，249-259 頁。

■橋本武久（2018b）「一七世紀末オランダ簿記書における資本勘定の位置付け」『會計』第 194 巻第３号，31-43 頁。

■橋本武久（2017a）「一九世紀オランダ簿記書における資本勘定」『曾計』第 192 巻第５号，43-52 頁。

■橋本武久（2017b）「高等教育機関における簿記および会計学教育の目的：旧制大学と新制大学のカリキュラムの比較から」『財務会計研究』第 11 号，41-58 頁。

■橋本武久（2016）「『帳簿の世界史』とオランダ会計史」『曾計』第 190 巻第５号，46-57 頁。

■橋本武久（2015a）「旧制商業系高等教育機関における簿記および会計の位置付けについて ー 両科目の並立に関する一考察 ー」『日本簿記学会年報』第 30 号，41-51 頁。

■橋本武久（2015b）「イタリア式簿記と株式会社」『曾計』第 188 巻第６号，57-70 頁。

■橋本武久（2008）『ネーデルラント簿記史論ーSimon Stevin 簿記論研究ー』同文舘出版。

キーワード　会計史、連合東インド会社、高大連携教育

研究テーマ Research theme

株式会社の発生と本質に関する比較会計史的研究

概　要 Overview

大学院以来、オランダ会計史の研究を継続しています。この研究は、近代経済発祥の地とされ、また世界初の株式会社を生んだオランダにおける簿記および会計の展開過程と意義を明らかにするとともに、株式会社の発生とその意義を会計史的に考察することです。

そこで、当初は 17 世紀の簿記書に焦点を当てた文献史的研究を中心に研究を進め、これについては、『ネーデルラント簿記史論 -Simon Stevin 簿記論研究 -』（同文舘出版、2008年）として出版を行いました。そして、2006年から2007年にかけてのオランダ・ライデン大学での在外研究を機に、連合東インド会社における一次資料を基にした会計史的研究を開始し、現在は同社の日本支店（平戸、出島両商館）の会計問題やイギリス東インド会社との比較研究を科学研究費補助金の支援を受けて進めています。また、2019 年４月から東京大学史料編纂所特定共同研究研究員として、これらの課題について学際的に研究を行っています。

なお、このような研究に関連、派生した研究として、わが国における高等教育機関の簿記および会計教育について、その淵源と位置付けを明らかにすべく、旧制時代の東京帝国大学（現・東京大学）や東京商科大学（現・一橋大学）を主たる研究対象として、これまでのカリキュラムや講義用要領等の一次資料を基にした史的研究を行っており、これについてすでに、日本簿記学会、財務会計研究学会などにおいての学会報告や、研究雑誌における論文発表も複数回行っています。今後はこれらの一連の研究から得られた分析視角でもって、わが国会計制度の展開過程の分析も行いたいと思っています。

また、2013 ～ 2015 年度にかけて、文部科学省の「高等学校における『多様な学習成果の評価手法に関する調査研究』事業：専門課程教育による高大連携事業を用いた評価手法の研究・開発」に採択され、その研究代表者として、大阪市立大阪ビジネスフロンティア高等学校を研究校とした７年間の学修（学習）成果の評価手法の研究および開発を行いました。そして、この成果については研究報告冊子として公表するとともに、日本簿記学会簿記教育研究部会において、その成果とその後の連携教育と実践内容について報告を行っています。

応用分野 Application areas

会計システムとコーポレートガバナンス。会計史的観点からの会計基準設定の研究。

共同研究等へのニーズ Need for joint research

連合東インド会社を題材とした、法学、経済学、証券市場論、コーポレートガバナンス論、貿易論、および、文化史論などの研究者との、株式会社の本質に関する学際的共同研究。